

1、活動スケジュール

- ① 講師から「ねらい」「活動の組み立て」「設定する予定の環境の意図」を聞く。
- ② 子どもたちがホールに集まる。
- ③ 講師と始まりの挨拶をする。
- ④ 講師の話聞く。
- ⑤ 講師と一緒に活動を楽しむ。
- ⑥ 講師が、次の活動の物的環境の準備をする。
- ⑦ 静かな時間を設ける。
- ⑧ 最後の振り返りの話を聞く。
- ⑨ 講師と終わりの挨拶をする。

2、〈活動の内容〉・・・いろいろな体を動かす、講師の言うことをよく聞いて動いて楽しむ。

〈活動のために準備した素材や道具、環境の設定〉

道具・・・笛、椅子につないでいるロングゴム、ロングマット

3、〈活動の様子〉

体操講師	担任及び子どもの姿
・始まりの挨拶をする。	・担任と一緒に元気よく挨拶をする。
・「こんなことできる？」遊びを通して体操をする。 体の動きや笛を使っての合図を出す。笛を鳴らさない時もありフェイントをかけて楽しませる。	・肩を回す。笛の合図で座る。笛が鳴ると思って座ったところ、ならなくて慌てて立ち上がる。
・歩きながら、笛が鳴ったら止まることを知らせる。	・楽しく歩いているが、笛がいつなるのか聞き耳を立てている子もいる。
・ぶつからないように「忍者走りで行くよ」のゲーム。 笛が鳴ったら止まるというのは同じ。	・周りの友達の動きも見ながら、小走りで走って、笛の音で座ったり、また走ったりする。
・マットを使った鬼ごっこをする。「おぼけ」の言葉で、マットに逃げ込むことを伝える。	・講師は最初「おぼけ」と言っていたが、次には「お、お、お、お、おにいちやん」や「お、お、お、おにぎり」など違うことを言う。 ・慌てて、マットに逃げ込もうと立ち上がって逃げようとする子もいるが、「違うよ」と知らせる子もいる。 ・殆どの子は違うと分かって大笑いし、次になんと言うのか期待している様子がある。 ・何度も繰り返し行いうちに、子どもたちはちゃんと聞いていないといけないことに自ら気付いて行動する。
・終わりの挨拶をする。	・この日は参観日であったため、保護者にも見てもらったお礼を伝える。講師にも挨拶をして落ち着いて退出した。

#### 4, 振り返り

- ・活動を講師が進めているので、お手玉を見る、笛の音を聞くなど、講師と子どもたちとの応答性の中で楽しみながら、集中して見る目と耳を育てていることが分かった。
- ・講師や担任との応答性による信頼関係が大切と感じた。
- ・正課の体操は講師が主導して行うが、担任にとっても、講師による実践指導はとても参考になり今後の保育に生かせる貴重な機会となっている。
- ・講師が保護者に話した内容を共有することで、正課の体操と日々の保育とのつながりが保護者にも伝わった。

#### ※ 以下、講師が保護者に話した内容

- ・体操はホールに遊びに来ているくらいの感覚で、楽しいと感じてくれたらよいと思っている。
- ・怪我の予防をねらった活動を入れ込んでいる。
- ・年少から年中、年長にかけて体が成長していくので、「うちの子、していなかった」「あのサーキットをとばしてた」などと思わないでほしい。人と比べなくて大丈夫。家に帰って「やってなかったね」という言葉がけでなく、「楽しそうだったね」と声掛けをして次への意欲につなげて欲しい。

